

ワクチン・検査パッケージに関する技術実証 最終報告(概要)

2022年2月25日 技術実証事務局

- 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（新型コロナウイルス感染症対策本部決定）等を踏まえ、飲食店やイベント等においてワクチン接種証明+または検査結果通知の「陰性」の確認（以下「V/T」と表記）等に関する技術実証を行い、V/Tのオペレーション等を検証した。
+ 接種証明のコピー、写真の提示で可

実施された技術実証の件数（2021年10月6日～12月31日）

飲食店 17、ブライダル 3、カラオケ 2、映画館 2、ライブハウス・劇場 3、コンサート・野外フェス 9、講演会等 2、サッカー 33、野球 15、モータースポーツ 2、体操・新体操 1、バレーボール 1、バスケットボール 16、遊園地・テーマパーク 3、即売会 1、パッケージツアー 40、宿泊施設 108

主な実証結果（飲食店等）

- V/Tに賛同できると考えている人が大半を占め、抵抗感を持つ人は少なかった。
- 入店前のV/Tにより、その店で飲食等を行うことへの安心感・信頼感が増すと考える人が多かった。
- 検査結果通知の「陰性」での入店・入場者はワクチン接種証明利用者よりもかなり少なかった。
- 全員V/T席の場合に、当日検査のニーズが高かった。ブライダルや劇場など、事前告知を行うことができる場合、ワクチン接種歴利用率が高かったが、カラオケや予約なしの飲食店では当日検査利用率が高かった。

主な実証結果（イベント）

- 「安心安全を求めてチケットを購入した」、「子ども連れで（安心感もあり）利用しやすい」といった理由でV/Tの座席を購入したという意見があった。
- 飲食店等における実証結果と同様に、検査結果通知の「陰性」での入店・入場者はワクチン接種証明利用者よりもかなり少なかった。
- 当日検査を実施した場合、ワクチン接種歴利用率が低かった。当日検査の実施は来場へのハードルを下げる一方、検査キット数やV/Tのスタッフ数などの見通しが立ちにくいといったオペレーションの課題が挙げられた。

今後への示唆

- ワクチンを接種できない人などが不公平にならないよう、事前検査・当日検査にかかわらず検査を受けやすい体制の整備が必要
- 検査費用については一定のコストがかかるため、検査キットの調達や検査場所等も含め、検査費用を低減させ、検査時間を短くする工夫が必要

(参考) 飲食店利用者のアンケート結果から

a. V/Tに対する賛否

- V/Tに賛同できる人が88.7%と大半を占めている（図1）。

b. V/Tによる店舗への信頼感、安心感の変化

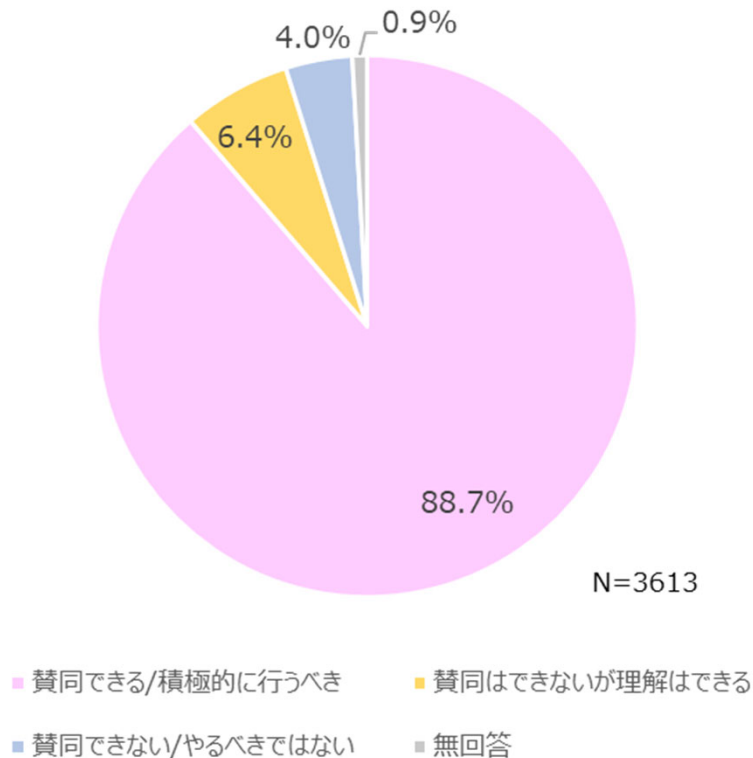
- 71%が、取組への参加により店への信頼感が増すと考えている（図2）。

c. V/Tによるお店選びへの影響

- 制限の緩和がなくともV/Tのお店を選ぶ人が24.2%、制限の緩和があればV/Tのお店を選ぶ人が63.7%。

[図1]

V/Tへの賛否



[図2]

店舗への安心感、信頼感の変化

